

編集・発行  
町田市男女平等推進センター  
運営委員会  
町田市原町田4-9-8  
町田市民フォーラム3階  
Tel. 042-723-2908



**一人ひとりが輝いた！男女平等フェスティバル**  
**参加者は2800人を越える！ 1月30・31日**

♪「若葉とそよ風のハーモニー」の若々しい元気なライブで始まった「第10回まちだ男女平等フェスティバル」。会場はほぼ満席。その歌声とメッセージはみなさんの心に豊かに染み込み感動を呼びました。その後にメイン企画の

**松井久子映画監督 講演会**

「人のせいにならない女性の生き方」



松井久子監督はテレビドラマやドキュメンタリーのプロデューサーとして活躍した後、98年「ユキエ」で監督デビュー。2作目の「折り梅」は観客動員数100万人を超え、そして第3作目となるのが、世界的彫刻家イサム・ノグチの母レオニー・ギルモアの生涯を映画にした日米合作映画『レオニー』です。

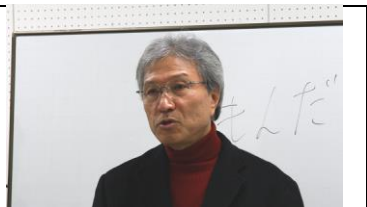
「7年間取り組んできた『レオニー』を

ようやく完成させて、昨日の夜帰国しました。最初のご報告を町田の皆さんにできることを光栄に思っています」という最初の挨拶に会場は盛大な拍手に包まれました。

映画説明の後、「日米合わせて450人もスタッフの女性リーダーとして感じたことが二つ。一つは女性のDNAの中に根強く巣くっている依存心からの解放。もう一つは他人が自分の思うとおりに動いてくれない、そんなときは、すべて理由は自分にあるということ。自分のやりたいことに自信をもって、心を解放して、“私はこうしたいの”と伝えれば、相手が男性であろうと外国人であろうと、ちゃんと通じる、人のせいにならないことです」

質疑応答の「依存心を減らすには？」には「過酷な経験を積み、常に自分との戦いを繰り返すこと。人に嫌われることを恐れないことです。『レオニー』の時代は大変だったけれど、今は女性のほうが強いのかもありません。人のせいになっている限り爽快感がありません。人のせいにならないで自分で決めたら、失敗しても爽快！」

映画は近々一般館で封切りになる予定です。乞う、ご期待！



**思春期の心とからだ**  
講師 丸山慶喜さん  
性を学ぶことは、自分を知ることであり、人間をわかること。そして生きるうえで基本となる大切なことだと痛感しました。会場には赤ちゃん連れのパパや若いカップルもいて熱心に聴いていました。

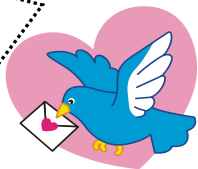


**寸劇から理解する認知症と介護保険の利用法！**  
講師 田口学さん／「気楽座」  
寸劇では認知症が進行する本人や家族を、笑いを交えて好演。そんな家族を支えるデイサービス等、地域全体で理解し支えていくことが大切との共通認識となりました。



**二じれない 人間関係のレッスン**

人間関係がこじれた時はそれを回復するチャンス。自分の気持ち大切に、人の話に耳を傾け、仲間をつくり助けを求めること、暴力ではなく勇気とコミュニケーションを…。心が動かされるお話でした。



その他の実行委員会企画 (一部)をご紹介します。

**心のケア講座**  
講師 深沢泰子さん  
自分が自分に持っているマイナスの評価をプラスに変えていきましょう、という呼びかけで、自分の「力」のリストアップや「自己ベスト達成リスト」を作成。自信と勇気が湧いてくるワークショップでした。

～開催された講座から～

プレーバックシアター体験 09年12月12日開催  
**声や体を使って気持ちを表現してみよう!**

プレーバックシアターとは、参加者のエピソードを別の参加者が即興劇にして再現し、その時の気持ちを分かち合うものです。突然、役者となった人は、本人になりきって熱演。本人はそれを客観視して笑えたことで違った見方ができるようになったと、その効果に驚いていました。



～男女平等フェスティバルから～

**お父さん大活躍! お父さんの軽食喫茶室**

エプロン姿におそろいのバンダナ。食券販売から調理、配膳、洗い物まで全て男性。男女平等フェスティバルで活躍しているお父さんたちです。「今年気づいたのは、子ども連れの若夫婦が多く見られたことです。いよいよフェスティバルも幅広い世代の人に認知されたのだと、嬉しくなりました。おかげさまで完売です。」



**音シネマでトーク**

センターには素晴らしい映画が沢山あります。大きなスクリーンで観て感想などを話し合しましょう。無料です。

\* 4月20日(火) 14:00～  
 「ショコラ」00年(米) 121分  
 不思議なチョコレートを売る母娘が因習に閉ざされた村を幸せに導くファンタジック・ロマン

\* 5月18日(火) 14:00～  
 「死ぬまでにしたい10のこと」03年(スペイン・カナダ) 106分  
 「余命2～3ヶ月」と告げられる23歳のアン。誰にも打ち明けずしたいことをリストアップ・・・

\* 6月15日(火) 14:00～  
 「フリーダ」02年(米) 123分  
 メキシコの女性画家フリーダ・カーロの自伝映画。どんなにつらくても立ち向う姿が描かれている。

上映場所：市民フォーラム 活動室(3F)

新刊書紹介

図書の貸し出しやDVD・ビデオの視聴ができます!

「突然、妻が倒れたら」 松本方哉(フジテレビ・キャスター) 新潮社

46歳の妻が最重度のくも膜下出血で倒れた! 「突然、奈落の底に突き落とされた」という著者は10歳の息子とともに妻を看病する日々をジャーナリストらしく克明に記録。看病する中で感じた怒りや絶望、疑問、元気をもらったことなども織り交ぜて伝えてくれます。同じような事態に直面している人を励まし役に立つ貴重な体験であり、誰にも起こり得ることとして多くの方に読んでいただきたい一冊です。

「働くママ、専業主ママ、子どものためにどっちがいいの?」 三沢直子 緑書房

臨床心理士で数多くの家族の問題の相談を受けてきた著者は、核家族化が進む日本で専業主婦になるのは実はとても危ういことだと言います。専業主婦のほうに結婚満足度が低く、育児ストレスが高い傾向があるそうです。その上で著者は「自分に合った選択を」と呼びかけます。自分ひとりで子育てすることに固執せず、保育者や他者のサポートを得ることや、仕事と家庭のバランスを大切にできる社会にと訴えます。

「なぜ若者は保守化するのか」 山田昌弘 東洋経済新報社

終身雇用と年功序列賃金が保証される雇用環境があった時代、若者はリスクをとつても自分のやりたいことを追求しようという意欲を持っていました。しかしバブル崩壊後の経済構造の変化で若者の多くは非正規雇用労働者となり、将来への希望を持たない格差社会が到来した結果、「会社になるべく長く勤めたい」「高給の男性と結婚し専業主婦になりたい」と、安定志向になっていきます。でも実際は「願望」に留まっているのが現実です。若者が将来に希望を持てる社会をつくるのが日本の課題であると痛感しました。

**男女平等センターの運営委員になりませんか?**

町田市男女平等推進センターは、男女が平等で一人ひとりが個性と能力を十分発揮できるよう、市民の活動の拠点として町田市が設けた施設です。この目的にそった活動を促進するために、運営委員会が活動しています。

運営委員会は、登録団体から推薦された委員、自主的に参加していただける市民、センター所長で構成しています。

任期は、1期2年で2期を限度としています。

運営委員会を中心に活動してきたものに、男女平等フェスティバル実行委員会の呼びかけ、情報紙「あなたと・・・」の発行、シネマでトーク、登録団体の交流と学習会などがあります。

男女平等に関心をお持ちの方、少し勉強をしてみようとお考えの方、個人での参加を大いに歓迎します。ぜひ男女平等推進センターにお問い合わせください。

TEL: 042-723-2908

